

電 營

スペ・アナ解析機能の電界アンテナ

RF技術を活用

モバイル／車の無線給電向け提案

営電は放送市場をメインとする中、これまで培ってきたRF技術を生かしたスペクトラム・アナライザ市場を二つ目の柱として展開。モバイル機器や自動車の無線給電をターゲットにした新製品を発売、積極的な提案を強めている。

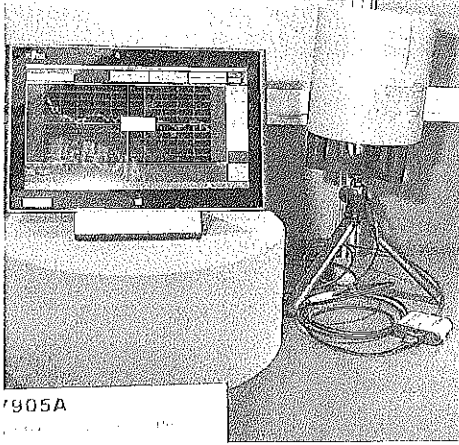
新製品はスペ・アナ解析機能を生かした電界アンテナ「電解析システム」で無線給電において、磁界ではなく電界（電場、電荷に力及ぼす空間の性質の一つ）の測定需要に引き合いが高い。この無線給電を重点市場に置き、周波数範囲が9kHzから30MHzまでカバーする新製品を開発した」と語る。

同社は、これまで培ってきたテレビ信号発生器を開発している技術を高周波開発に生かした。アンテナ開発技術は、子会社



深川 取締役

同社は、これまで培ってきたテレビ信号発生器を開発している技術を高周波開発に生かした。アンテナ開発技術は、子会社



905A

新製品のスペ・アナ解析機能を内蔵した電界アンテナ

社のエレナ電子が持つEMC技術が開発を支援。「（新製品は）アンテナ技術を開発。スペ・アナを二つ目のビジネスとして展開したい」（深川取締役）。

スペ・アナ部は周波数範囲が9kHzから30MHzまで、1kHzステップ。基準周波数安定度は $10^{-6}$ ppm。掃引時間は100msから30秒。検波モード正ピークと負ピーク、サンプル、アベレージ。パツテリ（単3×4本）で約5時間駆動する。新製品は、19日から千葉県美浜区の幕張メッセで開催された「国際放送機器展（インタービー）」に出品、同社の技術力の一つとして提案した。

新製品は約1kgのボディにアンテナとスペ・アナ機能を内蔵。波形表示や解析画面、データ保存は専用の光インターフェイスを使用し、タブレットやノートPCへデータを二つ目接続する。測定対象磁界への影響はない。

アンテナ部の特徴として、アンテナファクタが16dB/mタイプで、